

新元号「令和」の典拠は『万葉集』で、天平2（730）年に大宰府の大伴旅人邸で開かれた梅花の宴で読まれた和歌の序文が由来となっています。当時梅は唐（中国）から入ってきた珍しい植物だったともいわれています。その梅が全国に広がり、京の都では室町時代に賀茂神社例祭において後奈良天皇が梅を奉納、紀州では、江戸時代に安藤直次公が、やせ地は免祖地となることから領地での梅の栽培を奨励しました。こうして、当地域は全国一の梅の産地となったのです。



令和元 (2019)年**5月13日**(月)

◎スケジュール (※地図は裏面)

14:50 ~ ○紀州梅道中 (南西側馬場入口～藤巖神社)

時代行列。

個包装の梅干を配りながら藤巖神社まで歩きます。

15:00 ~ ○藤巖神社例祭 (藤巖神社)

藤巖神社に梅干を奉納します。

○もちまき (闘雞神社境内)

例祭終了後、もちとおかしをまきます。

※雨天決行、荒天中止

新元号「令和」・安藤家入城四〇〇年
世界遺産 闘雞神社創建一六〇〇年記念
「紀州梅道中」藤巖神社梅干奉納
——万葉から室町、江戸、そして令和へ——

紀州梅の会

・紀州みなべ梅干協同組合
・紀州田辺梅干協同組合
・紀州みなべ梅干生産者協議会
・JA紀南生産販売委員会
梅部会・梅干分科会

・和歌山県農業協同組合連合会
・JA紀州
・JA紀南
・田辺市

・みなべ町
・上富田町
・印南町
・白浜町
・すさみ町

「梅の日」に関するお問い合わせ先

「紀州梅の会」事務局

田辺市梅振興室内

TEL.0739-26-9959



スタート

① 紀州梅道中

③ もちまき

藤巖神社

② 例祭

● まちなか
ポケットパーク

鳥居

● 駐車場

鳥居

鳥居

闘雞神社

闘雞神社馬場

至つぶり坂

至たなべる

至田辺第二小学校